

2014年9月29日  
日本銀行金融研究所

「19世紀日本の風景：錦絵にみる経済と世相」  
——貨幣博物館資料のFRB美術品展示会への出展——

FRB（連邦準備制度理事会）では、1989年以降、秋のIMF・世銀総会時に、外国中銀の参加・協力を得て、各国の美術品展示会を行っています。これまでに10回の展示会が開催され、今秋が11回目となります。

その11回目の展示会には、FRBからの求めに応じ、アジアから初めて、本行が参加し貨幣博物館の所蔵資料を出展することになりました。また、貨幣博物館の所蔵資料を海外で展示するのもその30年余りの歴史の中で初めてのことです。

出展する資料は「錦絵」と呼ばれる多色刷りの版画で、貨幣博物館が所蔵する約1,500点のコレクションから46点を厳選しました。

46点の錦絵は、米国での展示ということも念頭におきつつ、貨幣関係資料の調査・研究や展示を行っている貨幣博物館の特徴を踏まえて、次の3種類で構成することにしました。第一に、錦絵でみる近世・近代の貨幣・経済史です。米国との関係の深い幕末から日本銀行設立までを紹介します。第二に、芝居絵など江戸時代の風俗・文化を伝えるものです。第三に、大黒天や恵比寿など幸福と富を願う縁起物です。

開催場所はFRB本館内で、開催期間は9月29日から11月21日の予定です。

今回の出展は、日本銀行とFRBとの関係強化に資するものです。また、貨幣博物館の所蔵する歴史的・文化的な資料を、海外で展示することは、これまでの調査・研究の成果を広く公開していくという意味でも、意義深いことと考えられます。

貨幣博物館は、リニューアル工事のために本年末から休館入りしますが、今回、米国で展示する錦絵は、来年11月頃に予定されているリニューアルオープン時には、貨幣博物館でも展示することを予定しています。その際には、貨幣博物館30年の歴史で初めて海を渡った錦絵の魅力を、実感していただければ幸いです。

以上

本件に関する問い合わせ先

日本銀行金融研究所 蒲原 電話 03-3277-3037

## FRB 美術品展示会へ出展する錦絵について

### 【第1部】錦絵でみる近世・近代の貨幣・経済史

江戸時代の貨幣、幕末から日本銀行設立までの間の貨幣・経済史を描いたもの



役者絵 尾上松助 和田しづま

19世紀前半 歌川国貞

仇討ちに向かう際に主君より賤別の包み金をもらう場面。



品定開化花

ちかしげ  
1879年 守川周重

文明開化でさまざまな新しい物が入ってきた様子を描いた錦絵。日本とアメリカの国旗が絵の周囲を囲んでいる。



大日本帝国政府日本銀行全景

1896年 歌川国貞（三代）

お金の価値の安定を図るため、1882年に日本銀行は中央銀行とし設立し、1896年に日本初の国家的近代建築として本店が竣工した。

東京駿河衛国立銀行繁栄図

1874年 歌川広重（三代）

日本橋駿河町の様子を描いた錦絵。右の奥に見える和洋折衷建築の建物は、「為替バンク三井組」。





【第2部】芝居絵など江戸時代の風俗・文化を伝えるもの



東海道五十三次の内 藤川駅 佐々木藤三郎  
1852年 歌川豊国（三代）

東海道藤川宿の風景を背景にした歌舞伎役者二代尾上多見蔵。衣装は、当時人々に馴染みのあった貨幣「寛永通宝」をモチーフとしている。



十二月ノ内霜月酉のまち 1854年 歌川豊国（三代）

十一月の酉の日の風景を描いた錦絵。女性達はお土産として市で売られていた縁起物を手にしている。



岩城升屋店前之図 1854年頃 歌川広重

江戸の麴町の呉服店岩城升屋が繁盛する様子とその前を行き交う人々の賑わいを描いた作品。

【第3部】大黒天や恵比寿など幸福と富を願う縁起物



七福神 宝の参宮 1863年 歌川芳虎<sup>よしとら</sup>

七福神が伊勢神宮に参詣する様子を描いた錦絵。使いの者はねずみなどの動物を擬人化して描いている。



福神 黄金の巻狩 1865年 歌川芳虎

七福神が狩りを行い中央で恵比須が鯛を仕留めている様子を描いている。